

— [REPORT] —

あんじょう協働リビングラボAグループ

つながりラボanjo

活動報告

2026年2月15日（日）発表



— [目的・ねらい] —

親子を中心とした多世代との仲間づくりの場を作りたい。

（イベントを通したきっかけ作り）

地域とのつながりを深めていく。



— [プロジェクト名] —

● 1回目

「みんなで作ろう！光の魔法

ペットボトルランタンで

大池公園を彩ろう」



— [実施日時] —

2025年12月13日（土）

13：00～17：00

— [実施場所] —

安城市 大池公園

芝生広場と大池前の階段



[対象者 & 人数]

乳幼児から小学生の子どもと保護者を中心に
参加人数の制限はなく多世代で交流する。

[協働相手]

デンパーク（竹筒）・キッチンカーAREN oyatsucafe
ハンドメイド作家・見回りボランティア・太平寺（駐車場）
チラシ配布先として、安城保育園と北部こども園に配信・
町内会回覧板・中部公民館・あんぱーく・アンフォーレなど

[活動内容]

- ペットボトルランタン作り
- 防災ポンチョ作り
- ゲームコーナー（輪投げ、モルック）
- ハンドメイドアクセサリ販売
- キッチンカー（飲み物・お菓子販売）



都市公園内行為計画書 「ペットボトルランタンで大池公園を彩ろう」

○ 芝生広場等占有図



キッチンカー位置
(テント・テーブル
イス使用しない。)

ランタン設置位置



《良かった点》

[効果測定]

① 多世代交流の促進と満足度の高いイベント運営

→スタッフが主体的に楽しみながら運営できたことで参加者も安心して過ごせる雰囲気生まれ、多世代が自由に交流・体験する場となった。参加者からは「楽しかった」「次回も参加したい」「孫と一緒に来られてよかった」といった声が聞かれ、地域交流のきっかけづくりにつながった。

② 効果的な周知による来場者増加

→チラシ配布や回覧板、事前の声かけ等の周知活動により、イベント開始時から多くの来場者があり、市内外からの参加も見られた。参加者からは「チラシを見て来た」「情報が届いて嬉しかった」という声があり、周知方法の有効性が確認できた。

③ 事前準備と役割分担による円滑で安全な運営

→事前準備により物品不足はなく、各コーナーを役割分担して運営することで全体としてスムーズに進行できた。また、ボランティアや関係者の協力により、安全面にも配慮した運営ができ、公園利用者と共に賑わいを創出することができた。

《反省・改善点》 [効果測定]

① 準備・片付け体制とスケジュール管理の見直しが必要

→搬入・設営・片付けに想定以上の時間を要し、開始時刻に間に合わない場面があった。
事前に全員で会場配置や動線を共有し、役割分担や当日のタイムスケジュールをより細かく設定するとともに、早めの集合や準備ボランティアの確保など、現実的な準備体制を整える必要がある。

② 各コーナー運営の人員配置・安全配慮の強化

→各コーナーを1人で対応する場面があり、対応が難しい時間帯があった。
コーナー間での協力体制やヘルプ体制を事前に決めておくこと、またモルック等の遊びについては来場者の安全距離を考慮した配置・運営方法の検討が必要である。

③ 来場者同士の交流促進とイベント構成の工夫

→スタッフと来場者の交流は見られたが、来場者同士の会話やつながりは限定的であった。
交流が生まれる仕掛けや声かけの工夫、またランタン鑑賞などのメイン企画を参加者と一緒楽しめるよう、時間設定や進行方法の改善が課題として挙げられる。

[プロジェクト名]

●2回目 「みんなで作ろう やさしい居場所」

ママ・パパ・子どもたち集まれ
みんなで作ろう
やさしい居場所



日時 2026年1月25日(日) 10:00~11:30
場所 安城市中部公民館 2階 大ホール
対象 乳幼児と保護者の方 (小学生までの兄弟の参加も可)
定員 親子20家族 (参加費・送料等2025年12月31日～元旦期間)
この事業は、安城市子育て支援センターが主催する子育て支援事業の一環として実施されます。
お問い合わせ先 子育て支援センター 安城市子育て支援センター 0565-22-1111
お問い合わせ先 masuyaka1218@gmail.com スタッフ連絡

[目的・ねらい]

子育て中の保護者の方や子ども同士がつながりを持てる居場所を作りたい。

保護者の方がほっとひと息つける場づくりや、子育て中の悩みや喜びを共有したり様々な話を気軽に出来る場を作りたい。



[実施日時]

2026年1月25日 (日)
10:00~11:30

[実施場所]

安城市 中部公民館

[対象者 & 人数]

乳幼児と保護者 定員20家族
(当日の参加 5家族 大人5名・子ども6名)

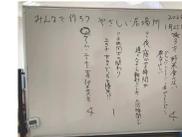
[協働相手]

特になし

チラシ配布先として、市内公立保育園とこども園に配信・大東町と新田町の町内会回覧板・中部公民館・あんぱーく・子育て支援センター・アンフォーレ・ほっとスペースなど

[活動内容]

- ・親子で工作（節分鬼のお面作り）
- ・子ども向け遊びコーナー
(絵本・折り紙・ぬりえ・鬼の玉入れ・鬼のボーリング)
- ・保護者向け座談会（大人は飲み物付き）



《良かった点》

[効果測定]

① 親子ともに安心して参加できる場を提供できた

子どもは自由に遊びや活動を楽しみ、保護者も安心して過ごせる雰囲気を作られていた。スタッフの関わりも好評で、参加者全員が高い満足度・安心感を示していた。

② 保護者同士の交流と子育て相談の場となった

サークルトークにより、保護者が話しやすい環境が生まれ子育ての悩みや経験を共有する機会となった。少人数であったことが、深い対話につながった。

③ 年齢に応じた遊び・活動で子どもが主体的に参加できた

未就学児から小学生まで、それぞれが楽しめる遊びや工作を通して、子どもが主体的に活動できる場となった。

④ 家族単位での関心が高く、継続開催への可能性が確認できた

父親の参加も多く見られ、家族での関心の高さがうかがえた。今後は開催日時の工夫や早期周知により、さらなる参加促進が期待される。

《反省・改善点》

[効果測定]

① 事前準備・運営計画のさらなる具体化が必要

写真撮影・掲載に関する同意取得や、アンケートの集計方法などを事前に想定しておくことで、当日の運営や事後対応をより円滑にできたと考えられる。

② 年齢差に配慮した活動内容と空間づくりの工夫

参加児童の年齢幅が広がったため、年齢に応じた遊びや制作内容をより柔軟に用意する必要があった。また、活動状況に応じて工作スペースと運動スペースを切り替えるなど、空間配置の工夫が課題として挙げられる。

③ 安全面と見守り体制の強化

今回は大きなトラブルはなかったが、参加人数が増えた場合に備え、遊びごとの担当配置や見守り体制を明確にすることで、より安心できる運営が可能になると考えられる。

④ 時間配分と規模設定の見直し

進行が予定より押したため、今後は時間配分をより明確にする必要がある。また、継続的な活動に向けては、スペースや予算を抑え、無理のない規模で実施する方向性を検討したい。

[効果測定まとめ]

《2回のイベントを通して～私達が目指す居場所作りとは～》

居場所とは、子育て中の親が安心して立ち寄り、同じ立場の人とつながれる場である。
参加者は、子育て中の人との交流や情報交換を求めて来場しており、身近な場所で気軽に参加できることが大きな動機となっている。

居場所は、子どもを見守りながら大人が話せる、安心感のある空間である。
子どもを預けるのではなく、そばで遊ばせながら大人同士が話せることで、子育ての不安が和らぎ、「ひとりではない」と感じられる時間が生まれている。

居場所は、悩みを共有し、ヒントや情報を得られる交流の場である。
解決を目的とする場ではなく、同じ経験を持つ人の話を聞くことで気持ちが軽くなり、次への一歩につながる場として機能している。

居場所は、日常の中に継続して存在することが大切である。
無料もしくは低予算で、近隣で、定期的で開催されることにより、必要なときに立ち寄れる地域の支え合いの場となり、子育て世帯を中心とした多世代交流・地域コミュニティの土台となる。

グループ内ミーティングの様子



[強み・特色]

異なるキャリアを持つメンバーが、それぞれの経験を活かしながら、安心してアイデアを出しやすい雰囲気を作れていること。アイデアを具体的な行動に落とし込み実行まで進める行動力があること。



[今後の展望]

子どもと多世代が交流できる場を目指して集まり、企画から実施までを2回やり遂げる成功体験を得ました。この経験を活かし、時期は未定ですが、今後も同様の場を作っていきたいと考えています。

つながりラボanjoとして今後も活動を続けていきたいという思いがあり市民活動団体として活動していきます！



— [THANK YOU!] —

ご清聴ありがとうございました!

つながりラボANJO

